

高潮ハザードマップ

■ 高潮発生メカニズム

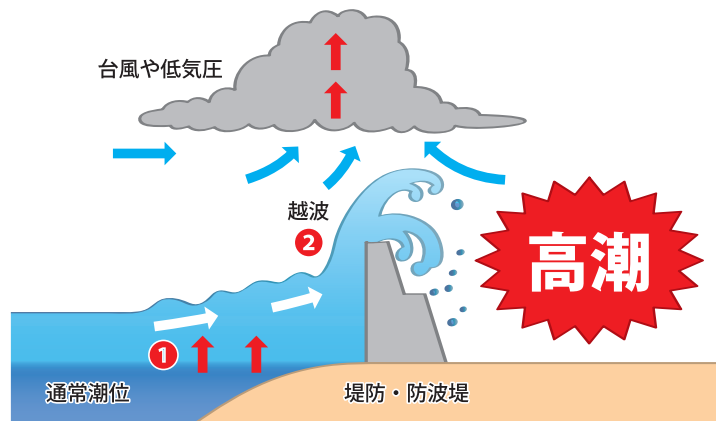
高潮は、「吸い上げ」や「吹き寄せ」という現象により、海水が堤防や防潮堤を越えたり、破壊して発生する浸水です。これらの現象が満潮時と重なると、より一層被害は大きくなります。

① 吸い上げとは

台風等低気圧が接近したときに、空気が海面を押さえつける力が弱くなり海面が持ち上げられること。

② 吹き寄せとは

海上から海岸に向かって風が吹き続けることにより、海面が高くなること。(風が長く吹き続けるほど海面は高くなります。)



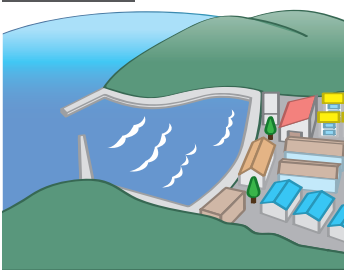
■ 注意する場所

河川沿い



高潮は河川を遡上します。そのため、海から離れた場所でも河川を遡上してきた高潮により氾濫する可能性があります。台風襲来時には、大雨で河川の水位も増大しており、大変危険です。

港内



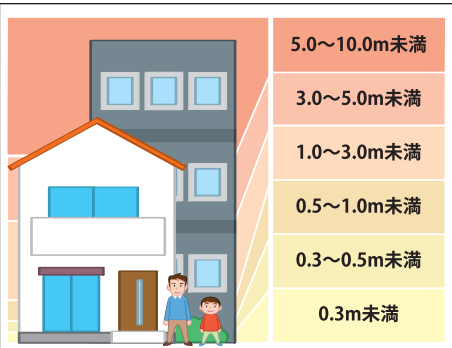
港内では波が反射を繰り返し、共振現象(波の山と山が重なる現象)を起こして波が大きくなる場合があります。

凡例

高潮浸水想定区域(浸水の深さ)

- 5.0～10.0m 未満
- 3.0～5.0m 未満
- 1.0～3.0m 未満
- 0.5～1.0m 未満
- 0.3～0.5m 未満
- 0.3m 未満
- 浸水実績

浸水の深さの目安



シミュレーション条件等

本マップは、想定し得る最大規模の高潮が発生した場合の浸水想定区域を示しています。日本に接近した台風のうち既往最大規模の台風(室戸台風:中心気圧910hPa)が、満潮時に潮位偏差が最大となる経路を通過した場合の想定によりシミュレーションを行っています。また、高潮と同時に発生する河川の洪水を考慮し、堤防等のすべての防護施設は設計条件を超えた段階で破壊されることを基本としています。

出典:兵庫県「兵庫県播磨沿岸高潮浸水想定区域図[たつの市]」(令和2年8月)

本マップに示す浸水実績は、平成16年(2004年)、平成18年(2006年)、平成23年(2011年)の台風による高潮のものです。

拡大図

